

1 1 久土知地域の景観

①久土知地域の概要

1 自治区の成立（※1～2は『緒方町誌 区誌編』を参考にした）

| | |
|---------------|-------------------------|
| 江戸期 | 岡藩領今山組。久土知村、宮園村から成る。 |
| 明治 8 年(1875) | 久土知村と宮園村が合併し新村となる。 |
| 明治 22 年(1889) | 町村制実施により、南緒方村大字新となる。 |
| 昭和 25 年(1950) | 町制施行により、緒方町大字久土知となる。 |
| 平成 17 年(2005) | 町村合併により、豊後大野市緒方町久土知となる。 |

2 主な出来事

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 寿永 2 年(1183) | 一宮八幡社造立（伝承）。 |
| 12 世紀後半 | 緒方宮迫東石仏・宮迫西石仏が造立される。 |
| 文明年間 | 緒方荘政所が置かれ、三代氏が執務する。 |
| 大永 7 年(1527) | 大友義鑑が、謀反を起こした佐伯惟治の被官を成敗するよう緒方荘政に命じる。 |
| 元禄 14 年(1701) | 荒平の溜池が築造される。 |
| 正徳 3 年(1713) | 荒平の池守護神として荒平稻荷神社が創建される。 |
| 文化 5 年(1808) | 三代一族が大友氏に仕えた先祖供養塔を建立する。 |
| 昭和 10 年(1935) | 荒平の溜池堰堤改修工事竣工。 |
| 平成 7 年(1995) | 久土知公民館竣工。 |
| 平成 8 年(1996) | 老朽化した荒平の溜池堰堤の改修工事竣工。 |

3 久土知地域の構成・人口など

組合名

上村、前平、田仲、宮尾、観音堂、宮園、石仏

戸数・人口

57 戸、121 人

(令和元年 12 月)

②久土知地域を潤す井路と水田景観の成立

久土知地域の水田は、緒方川の支流清田川と荒平溜池によって灌漑される。また、緒方川上流から導水する原尻新井路によって、宮迫地域の棚田が灌漑されている。いずれも圃場整備が完了し、以前の水田の面影はない。



写真 114 久土知地域の位置図

久土知地域の宮迫には、緒方宮迫東石仏・宮迫西石仏があり、平安末期に緒方荘の荘司であった緒方三郎惟栄の造立と言われている。久土知地域には、文明年間には緒方荘政所が置かれ、大友氏配下の三代氏が執務するなどしており、緒方盆地の中核であったことが推察される。三代氏は、大友親繁以降、義鎮（宗麟）の代まで大友氏に仕え、緒方荘内に領地を持つ大友家臣であった。大友宗麟の時代に、三代孫次郎が大友家重臣の田北紹鉄とともに合戦に出陣し、大友宗麟から感状を与えられている。

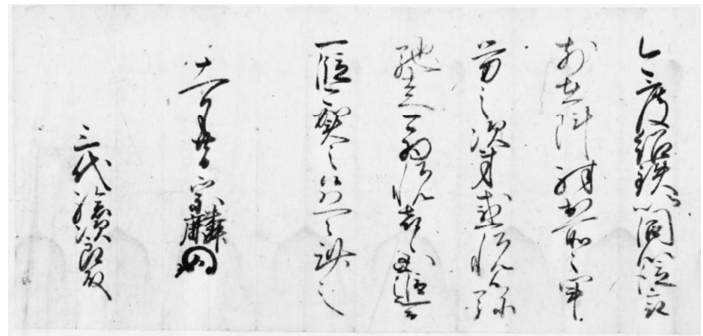


写真 115 三代孫次郎に与えられた宗麟の感状

久土知地域は、原尻地域と境を成す緩やかな丘陵の東側斜面に形成されている。清田川により侵食された土地を水田として活かすため、集落が傾斜面に形成されたのであろう。集落内に造立された緒方宮迫東西石仏や、緒方惟栄創建と伝えられる一宮八幡社が存在することから、平安末期には緒方盆地地域を治める重要な地点であったのであろう。

③旧字図と空中写真から見る久土知地域の圃場

写真 116 は現在の久土知地域の空中写真で、図 70 は明治 21 年調製の字図である。久土知地域の棚田の一部である圃場 A は、現在原尻新井路により灌漑されている。明治 21 年調製の字図（図 70）を見ると、圃場 A は既に水田化している。原尻新井路が明治 33 年に通水したので、その際に

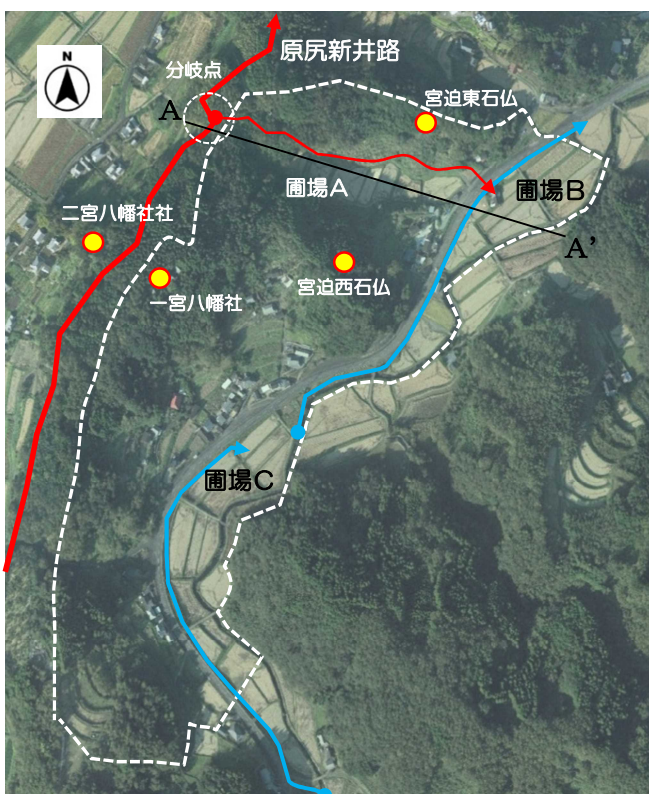


写真 116 久土知地域空中写

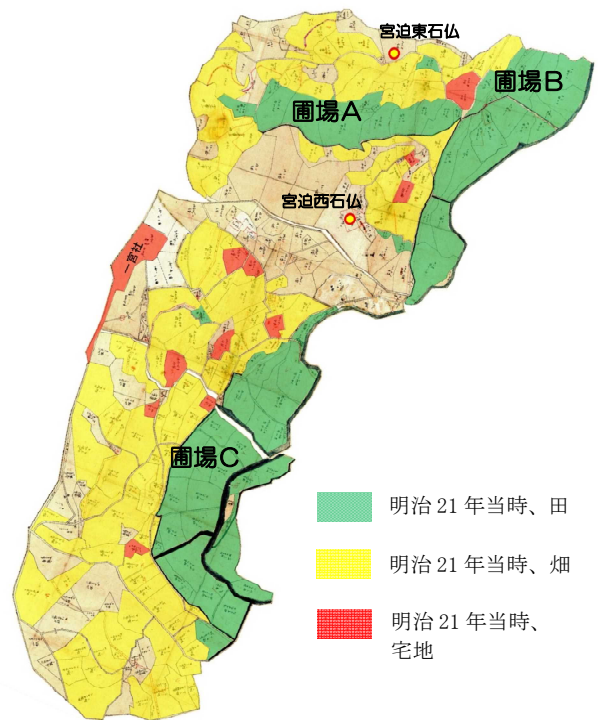


図 70 明治 21 年調製の字図

原尻側から久土知側に隧道を掘り（宮迫支線）、圃場Aに通水するようにした（写真 117、118）。圃場Aの近くには緒方宮迫東石仏があり、その付近からは自然水が豊富に湧き、現在も集落の生活用水として利用されている。図 70 を見ると、明治 21 年の字図では、宮迫東石仏は高地でありながら、その付近に水田が営まれている。ここには湧水を利用した水田があったのであろう。



写真 117 原尻新井路と宮迫支線分岐点（原尻側）



写真 118 宮迫支線の久土知側出口



写真 119 圃場Aと宮迫支線



写真 120 石仏下のイノコと旧水田

圃場B・圃場Cは、清田川に堰堤を築き、小規模な井路を開鑿し、灌漑用水としている。現在は堰堤も圃場も改修工事が完了しており、当初の堰堤や井路の面影はない。しかしながら、小規模河川の所々に堰堤を築き、周辺の土地を開拓し水田化していくという、古い時代の土地開発の様子が読み取れる場所である。

④久土知地域の断面模式図

図 71（写真 116 A-A' 間）は、久土知地域のうち、宮迫地域の断面模式図である。明治 21 年調製の字図を見たとき、棚田は既に水田化している。現在は、明治 33 年に通水した原尻新井路から久土知線が分岐し、灌漑されている。不安定な湧水に井路の水を加え水田を営むようにしたのであろう。

図 70 で示したとおり、明治 21 年当時は宮迫東石仏・西石仏に近接して水田が営まれている。これはイノコによる灌漑であろう。現在では水田は営まれていない。清田川沿いでは、明治 21 年当時から既に水田が営まれているが、いつから水田化したのか示す資料はない。緒方惟栄創建と伝えられる一宮八幡社が集落北側の頂上にあり、宮迫東・西石仏も平安末期に造立されている。このことか古代に水田が営まれていたと考えて間違いはないであろう。

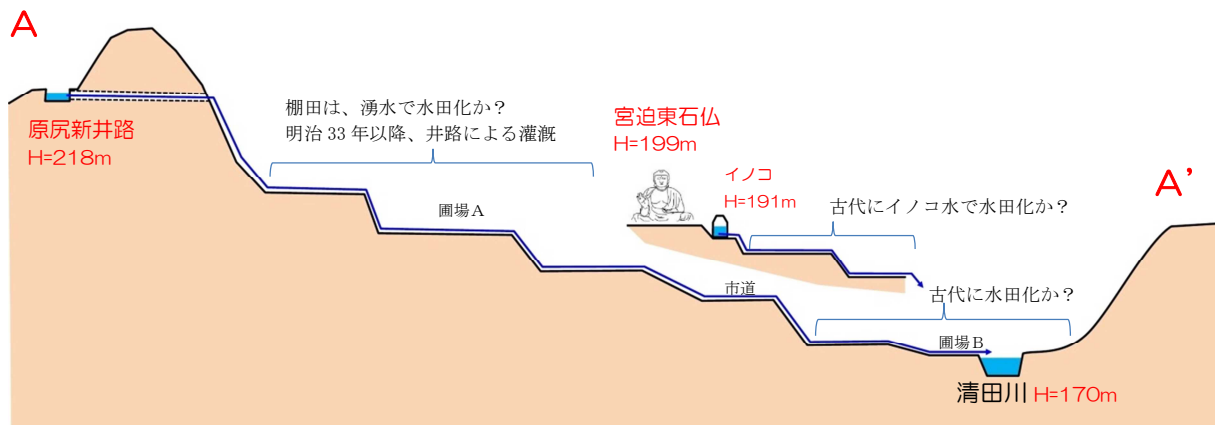


図 71 久土知地域の断面模式図






⑤久土知地域の景観の要素





久土知地域のうち、宮迫地域では明治 21 年当時、既に棚田が営まれていた。また清田川沿いでは、小規模な堰堤をいくつも築き、川沿いの土地を水田化している。川沿いの土地を活かすため、集落は緩やかな傾斜面に形成されている。

久土知地域で人々が造り上げた景観の構成要素には特筆すべきものがある。それは一宮八幡社と緒方宮迫東石仏・西石仏である。一宮八幡社の祭神は仲哀天皇で、二宮社の祭神である応神天皇の父であり、三宮八幡社の祭神神功皇后の夫である。毎年開催される緒方三社川越し祭りでは、二宮八幡社に下り、応神天皇・神功皇后と一年に一度の再開を果たす。緒方盆地地域の神社の中で最高位に位置づけられる。以下、久土知地域のうち、文化的景観選定予定範囲である宮迫・宮園地域の構成要素を掲げる。

表 16 久土知地域の景観の構成要素

| 番号 | 要素名 | 写真 | 説明 |
|----|-------|--|--|
| 1 | 一宮八幡社 |  | 緒方三社の一つで、神殿は明治 44 年（1911）竣工である。一宮八幡社が仲哀天皇、二宮八幡社が応神天皇、三宮八幡社が神功皇后を祀る。緒方三社川越し祭りでは、川を渡る三宮八幡社の祭神を、一宮八幡社と二宮八幡社の祭神が迎える。三社祭りの中心となる神社である。 |
| 2 | 宮園横穴墓 |  | 一宮八幡社南側斜面に 20 基を越す横穴墓が穿たれており、緒方盆地周辺では最大規模の横穴墓群である。清田川流域が古くから開発されたことを物語る遺跡である。 |

| 番号 | 要素名 | 写真 | 説明 |
|----|-------------------------|--|--|
| 3 | 原尻新井路 久土知支線分岐の 隧道 |  | 原尻新井路の幹線から分岐する久土知支線の隧道で、久土知支線は宮迫東石仏と西石仏の谷間にある棚田を潤す。 |
| 4 | 大日上横穴墓 |  | 宮迫東石仏の左側崖上に4基が並列して穿たれ、その下方には2基の横穴簿が穿たれている。清田川流域が古くから開発されたことを物語る遺跡である。 |
| 5 | 緒方宮迫東石仏 (国指定史跡) |  | 平安末期、緒方荘を支配した緒方三郎惟栄の造立と推定される。中央に如来型座像、その向かって右に不動明王立像、左に毘沙門天立像の3体が並び、更にその左右に金剛力士像が配置されている。彩色が施されているが、大正末期から昭和初期にかけて補彩されたものと思われる。昭和9年に国史跡に指定された。 |
| 6 | 緒方宮迫東石仏側の イノコ |  | 緒方宮迫東石仏参道脇にあるイノコで、民家の生活用水として利用されている。石仏のある丘陵は標高が230m程度であるが、豊富な水が湧き出ている。明治21年調製の字図では、緒方宮迫東石仏付近に水田が確認できる。この湧水を利用した水田が営まれていたのであろう。 |
| 7 | 緒方宮迫西石仏 (国指定史跡) |  | 緒方宮迫西石仏も緒方三郎惟栄の造立と推定される。向かって右から阿弥陀如来、釈迦如来、薬師如来の順に並ぶ。彩色が施されているが、これも緒方宮迫東石仏と同様に大正末期から昭和初期にかけて補彩されたものと思われる。昭和9年に国史跡に指定された。 |

| 番号 | 要素名 | 写真 | 説明 |
|----|--------------|--|--|
| 8 | 緒方宮迫西石仏側のイノコ |  | <p>緒方宮迫西石仏参道脇にあるイノコで、民家の生活用水として利用されている。宮迫西石仏は如来が3体彫られており、イノコの隧道は左端の薬師如来方向に穿たれているという。明治21年の字図では、東石仏と同様に付近に水田が確認できる。この湧水を利用した水田が営まれていたのであろう。</p> |
| | |  | <p>隧道は、阿蘇3・阿蘇4溶結凝灰岩の間の火山灰土層に穿たれている。この土層は地下水を保水する性質を持つため、豊後大野市の各地でこの土層から湧出する地下水が「イノコ」水として利用されている。</p> |
| 9 | 南井路と堰堤 |  | <p>清田川を堰き止め、水田に水が送られている。主に宮園小組合の水田を潤す。</p> |
| 10 | 唐人(からと)井路と堰堤 |  | <p>清田川を堰き止め、水田に水が送られている。主に石仏小組合の水田を潤す。</p> |

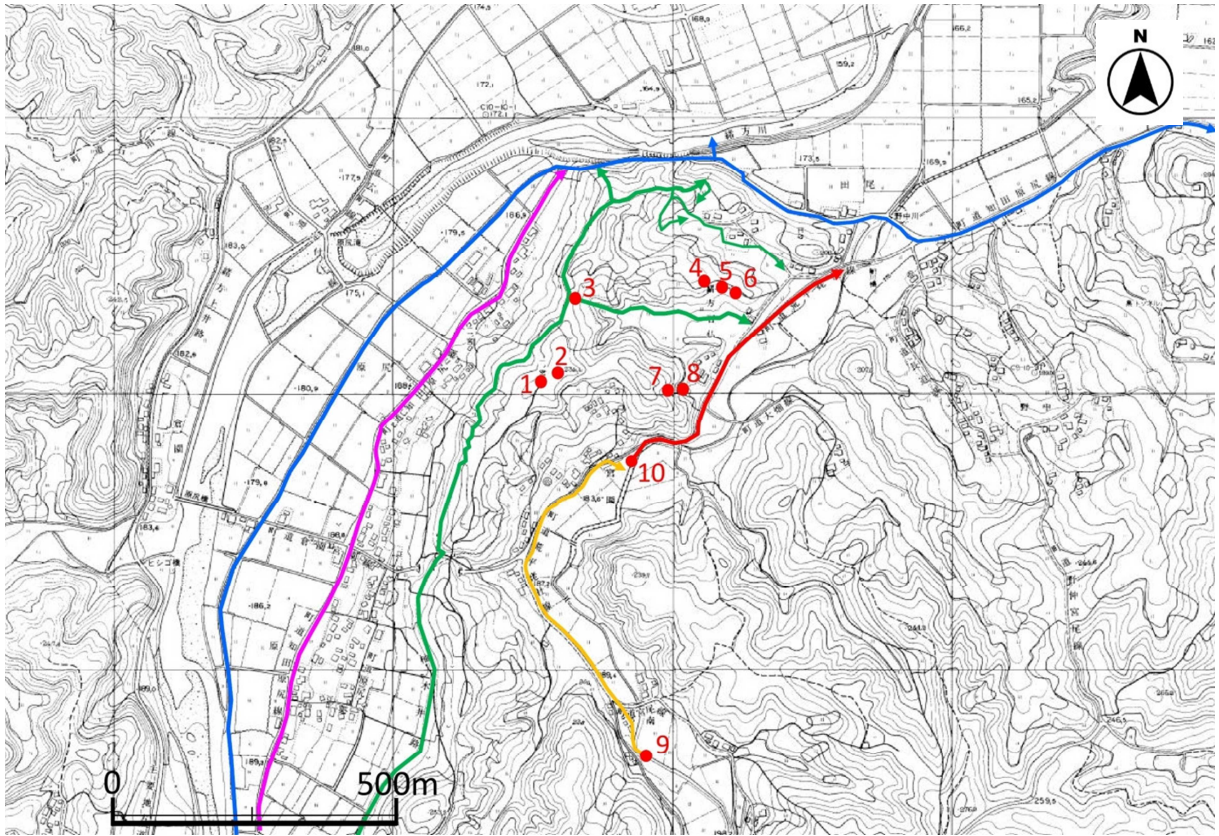


図 72 久土知地域の構成要素位置図

1 2 野仲地域の景観

①野仲地域の概要

1 自治区の成立（※1～2は『緒方町誌 区誌編』を参考にした）

| | |
|---------------|------------------------------|
| 江戸期 | 岡藩領河宇田組。野中村、小野村から成る。 |
| 明治 8 年(1875) | 野中村と小野村が合併し鮎川村となる。 |
| 明治 22 年(1889) | 町村制実施により、南緒方村大字鮎川となる。 |
| 昭和 25 年(1950) | 町制施行により、緒方町大字鮎川となる（行政区は、野仲）。 |
| 平成 17 年(2005) | 町村合併により、豊後大野市緒方町鮎川（行政区は、野仲）。 |

※時代により、野中・野仲と名称が混在。

2 主な出来事

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 承応元年(1652) | 野仲井手開鑿開始。※江戸時代は井手、明治以降は井路と呼んだ。 |
| 承応 3 年(1654) | 野仲井手竣工（現、三区井路）。 |
| 明治 14 年(1881) | 野仲井路（現、三区井路）取水口付近を岩盤掘削し現在の井路の形になる。 |
| 明治 14 年頃 | 野仲井路の水路石橋竣工。 |
| 明治 25 年(1892) | 南緒方尋常小学校開校。 |
| 大正 10 年(1921) | 野仲井路堰堤の改修工事竣工。 |
| 昭和 21 年(1946) | 明正井路徳田補水線が竣工。野仲線に接続。 |
| 昭和 49 年(1974) | 昭和 48 年からの県営圃場整備が完工。 |
| 昭和 59 年(1984) | 野仲公民館竣工。 |
| 平成 7 年(1995) | 清田川に架かる清流橋竣工。 |

3 野仲地域の構成・人口など

| | |
|-------|-----------------------|
| 組合名 | 田尾、長迫、前久保、米納 |
| 戸数・人口 | 43 戸、115 人（令和元年 12 月） |

②野仲地域を潤す井路と水田景観の成立

野仲地域は、緒方川の南側に位置し、西は原尻・久土知区、東は小野区、北側には緒方川を挟んで下自在区がある。野仲地域のほぼ中央を清田川が北東方向に流れ、緒方川に合流している。

野仲自治区の小組合は、田尾・長迫・米納・前久保であるが、前久保は景観選定範囲の外である。野仲地域の圃場は、緒方川を源とする三区（野仲）井路、原尻新井路、神原川（緒方川の支流）を源とする明正井路の 3 本の井路によって潤されている。田尾地域の水田は、原尻新井路と湧水によって灌漑される棚田である。原尻新井路は明治 33 年に通水しているので、それ以降水田が拡大している。また、清田川と緒方川に挟まれた広い圃場（借渡・清田）は、三区井路（野仲）井路によって灌漑される。三区（野仲）井路は、承応 3 年に完工しているので、借渡・清田はその頃水田化したのであろう。

長迫と米納は、明正井路（鮎川線）によって灌漑される棚田地域である。明正井路は、緒方川支流の神原川に取水口を設け、大正 6 年(1917)に着工し大正 13 年(1924)に竣工した。幹線水路の総延長は 48 km で、支線・排水線の総延長は 127 km、灌漑面積は 402ha に及ぶ。「明正」の名前は、明治大正期にかけて、水路橋、隧道、開渠の一連の計画・設計、工事が行われたことに由来する。

なお、明正井路は昭和 21 年に徳田補水線を完工し鮎川線に接続したため、野仲地域の水田面積は約 15ha となった。写真 121 は野仲地域を潤す井路線と圃場を示したものである。この図から、原尻古井路・原尻新井路・明正井路の末流すべてが三区（野仲）井路に流入していることがわかる（黄色○の地点）。ここでも他地域と同様に、井路の水を無駄にしない仕組みが採られている。

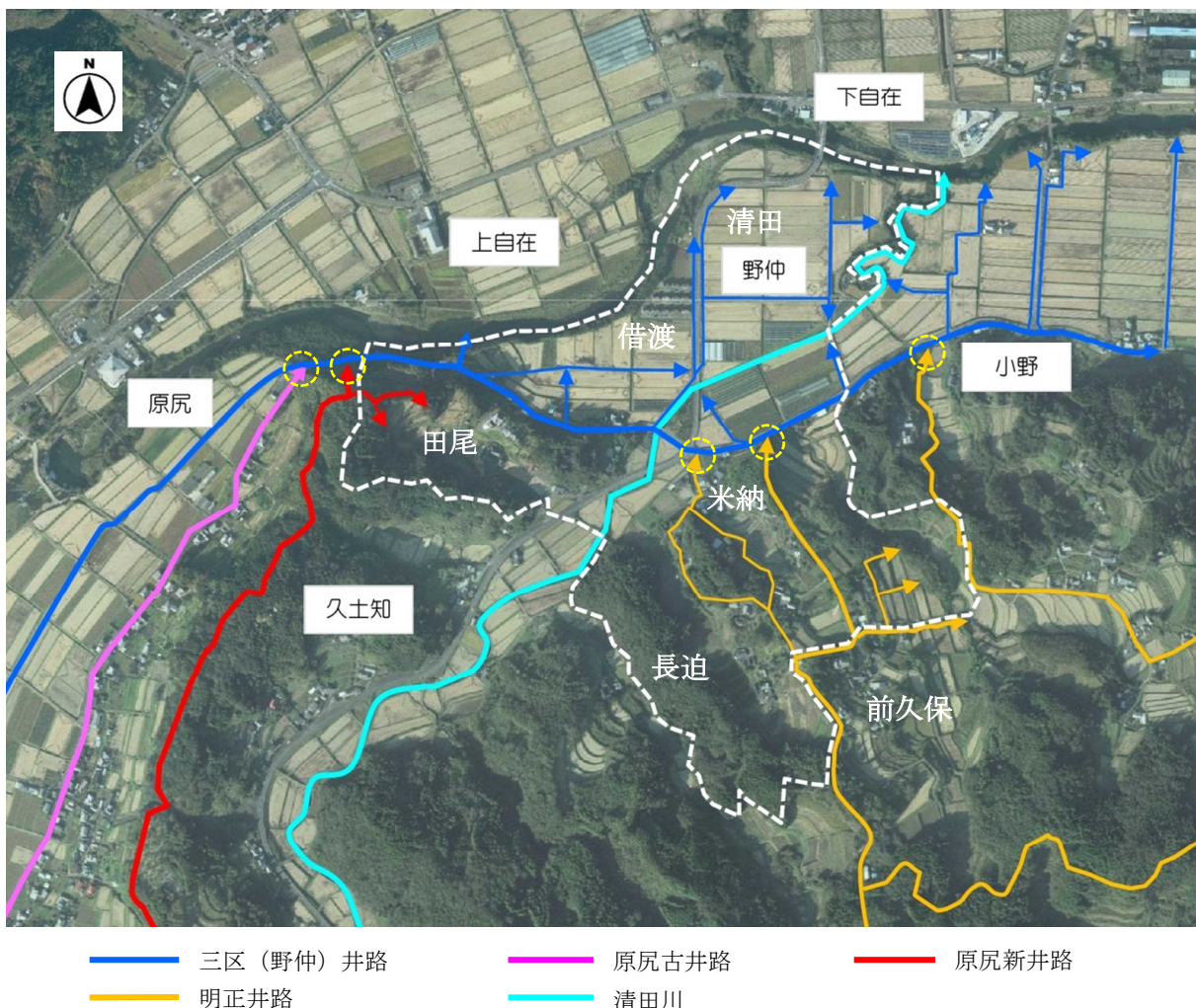


写真 121 野仲地域の位置と井路幹線支線図

三区（野仲）井路の概略については、「野中井路之碑」（昭和 16 年設置）に井路の歴史が記されているので、堰堤築堤や凝灰岩の岩盤掘削工事に関する部分を以下に要約する。※現在は「野仲」と表記されるが、野仲井路の碑は「野中」の字が使われている。

「野仲井路は承応元年(1652)に旧豊後国岡藩主中川久盛により開鑿が始まった。緒方町原尻字上戸に堰を設け取水口とし、原尻集落内を通過し、字市穴で原尻井路に合流する。取水口から第一排水門まで百二十間の全部が板堰であったが、毎年の修理費用が多額に及び、維持管理も大変煩わしかった。そこで、明治 14 年に巨費を投じて堅盤掘鑿の水路に改修した。この工事は二百年の大計にして、蓋し万世不朽の事業であると言えよう。その後、大正 14 年に多くの水量を確保するため、堰堤の改修と掘割水路下流に



写真 122 野中井路碑

水路壁の築増を行った。築増の延長は九十間であり、取水口から第一水門の間の主要部分は、堅牢な構造となった。

井路開鑿によって灌漑される水田は広大になり、所謂「緒方五千石」と呼称される美田の一部を成すようになった。田は干魃の患害を心配することが無く、産額も往古に比べ倍加豊穰となり、米産地としての緒方米の名声を博するに至った。」

以上のことから、野仲地域の水田景観は、まず承応3年以降に借渡・清田の圃場が水田化し、明治33年に通水した原尻新井路により、田尾地域へ補水されるようになり、棚田面積が広がった。更に大正年間に通水した明正井路鮎川線により長迫・米納へ補水されるようになり、水田面積が広がったことがわかる。

③新・旧字図から見る野仲・小野地域の圃場

図73は明治21年調製の字図である。野仲・小野地域は、明治8年に合併し鮎川村となった。現在の行政区は野仲と小野に分かれている。

図73の田尾・長迫・米納の一部地域は、明治21年段階で既に水田化している。自然湧水を利用し水田を営んでいたのであろう。借渡・清田から小野地域にかけては全面が水田化している。これは承応3年に完工した野仲井手（三区井路の前身）の灌漑によるものであろう。

図74は現在の地籍図に着色したものである。田尾・長迫・米納のいずれも水田面積が拡大している。これは明治から大正期にかけて、原尻新井路・明正井路が通水したことにより、畑地が水田化したことを示している。

また、旧字図（図73）を見ると、長迫や田尾で水田が細長く存在している。これは、井路開通以前でも丘陵地帯に形成された谷間で、湧水を利用した水田が営まれていたことを示している。

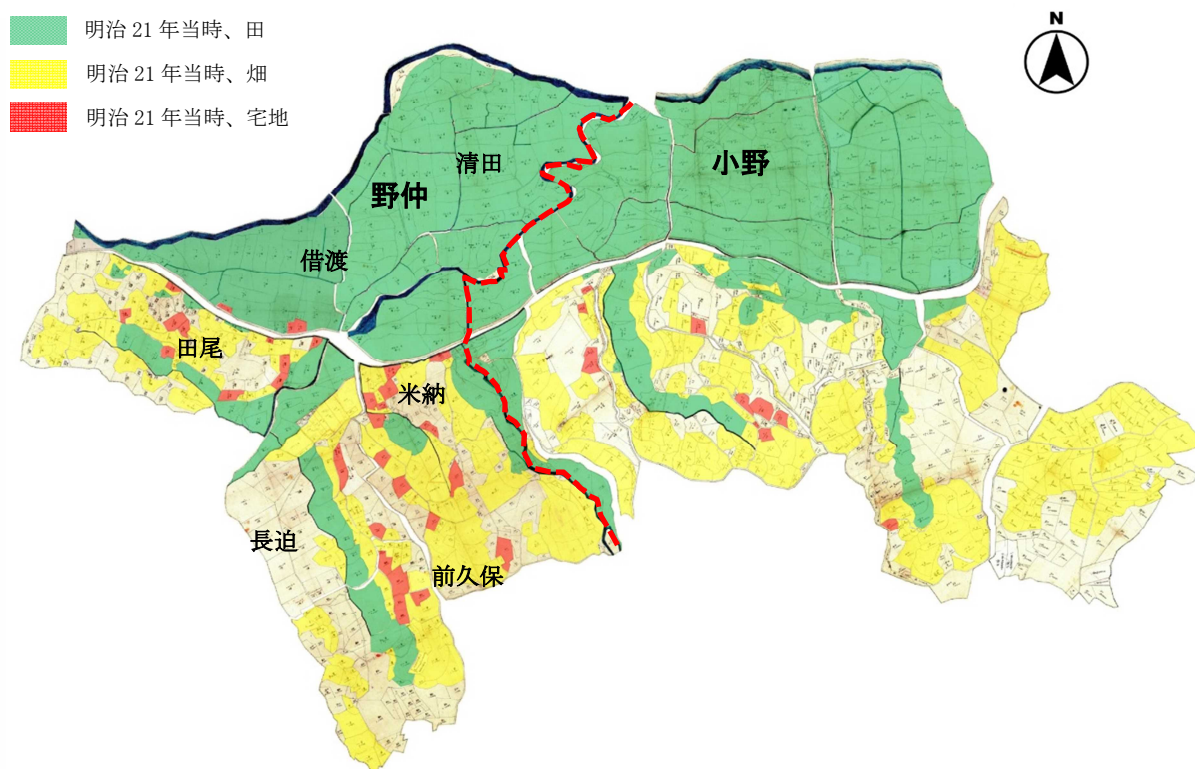


図73 鮎川（野仲・小野）地域の旧字図

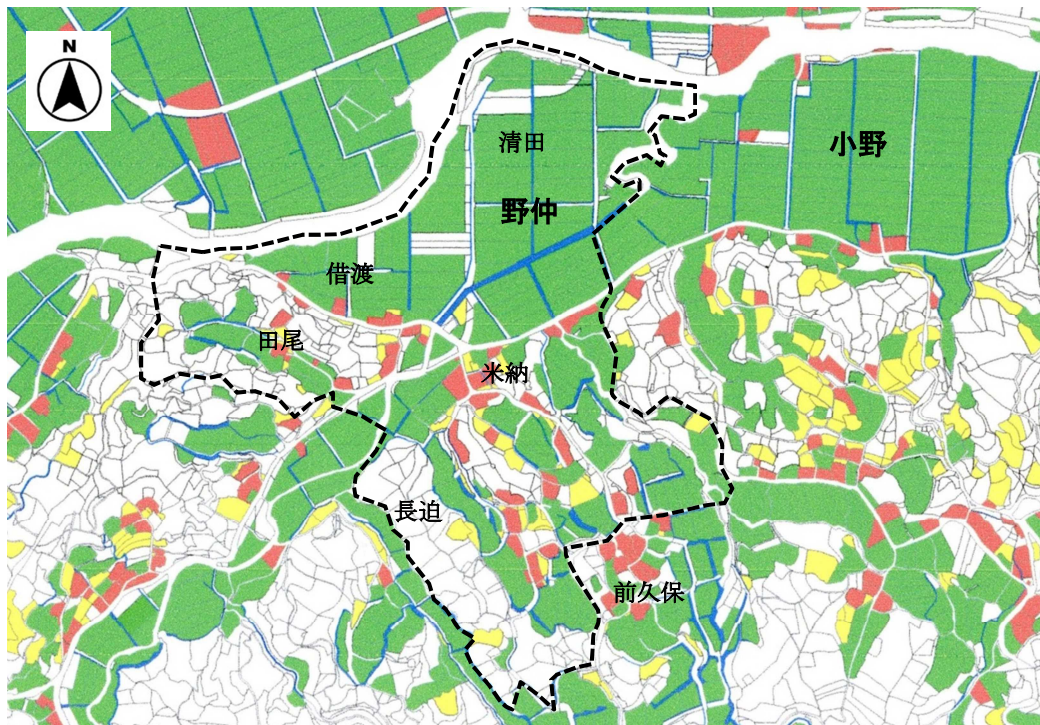


図 74 鮎川（野仲・小野）地域の現字図

④圃場整備前の野仲・小野地域の空中写真

写真 123 は昭和 51 年の野仲・小野地域の空中写真である。借渡・清田では既に圃場整備が完了している。田尾・長迫・米納では圃場整備が行われておらず、棚田の畝数が夥しい。これらの地域では、現在は後継者不足・高齢化により減反または荒廃が進行している。

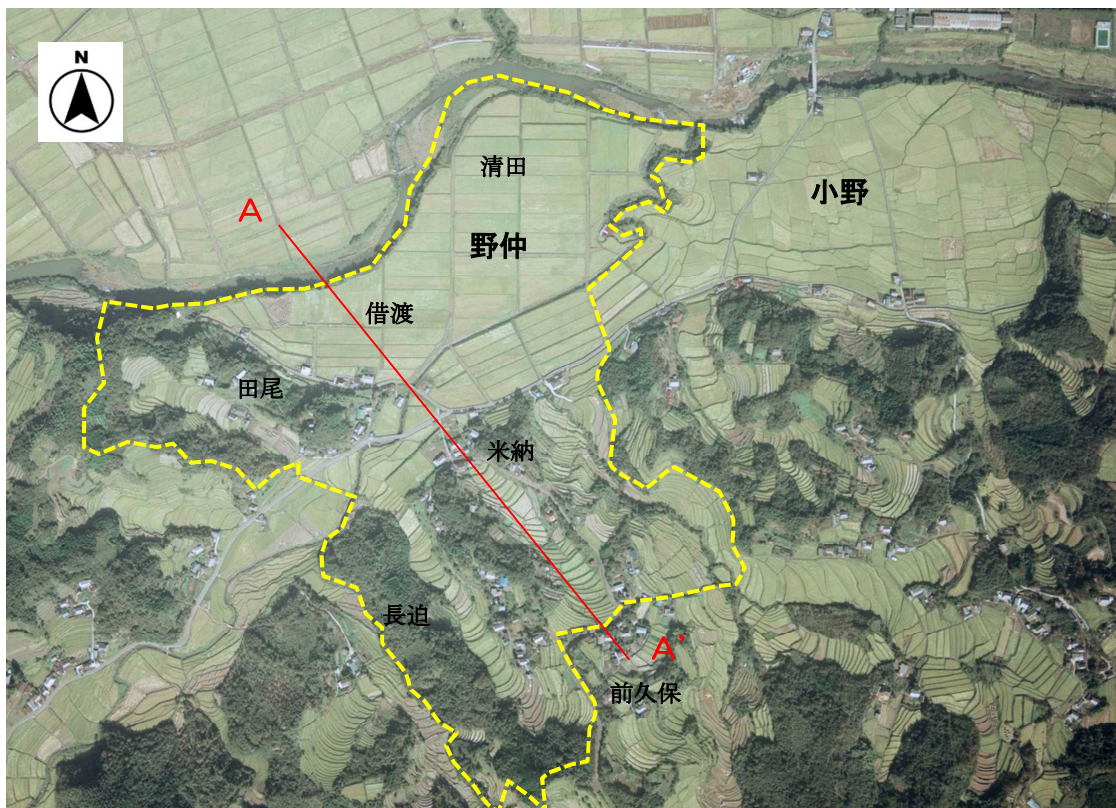


写真 123 鮎川（野仲・小野）地域の空中写真（昭和 51 年、地理院撮影）

⑤野仲地域の断面模式図

図 75 は野仲地域の断面模式図である（写真 123 A-A' 間）。借渡・清田地域は、野仲井手（現三区井路）が承応 3 年に完工しており、それ以降降水田化している。前久保地域は、自然湧水による水田がわずかにあったが、大正 13 年以降の明正井路通水により大部分の畑地が水田化した。

明正井路の末流は、現在の三区井路に流れ込み、野仲・小野・知田地域の補水の役割も担っている。

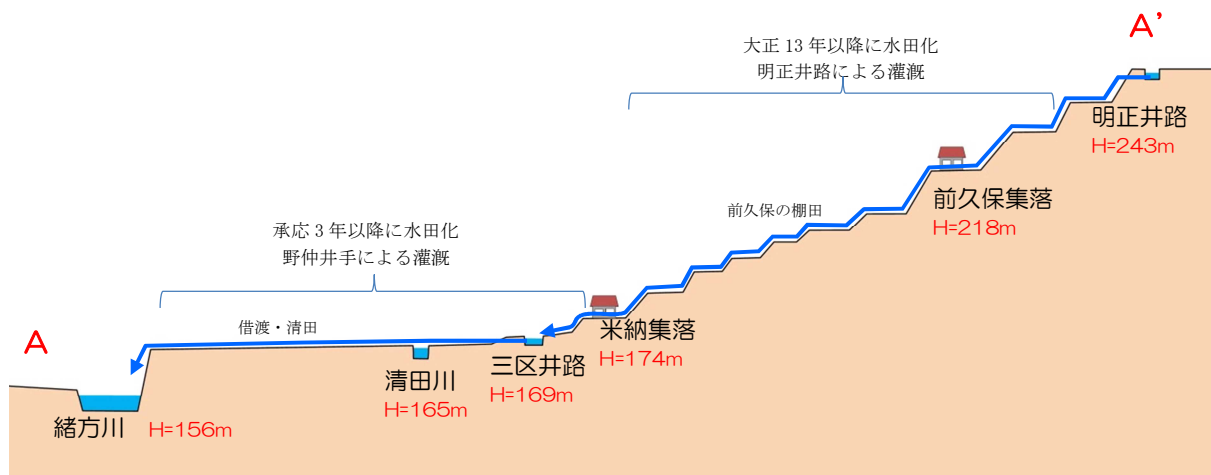


図 75 野仲地域の断面図（写真 123 A-A' 間）

⑥野仲地域のクンバ（汲ん場）

野仲地域を流れる三区（野仲）井路の 2 ヶ所にクンバ（汲ん場＝汲み場）が確認できた。



写真 124 野仲地域の汲ん場位置図







写真 125 汲ん場写真 (No.2)

野仲地域では、三区（野仲）井路に面した住宅が少ない。そのため汲ん場数も少なく、わずかに 2 ヶ所しかない。汲ん場 (No.2) の中には、重し用の自然石 2 個があり、側には野仲二里塚（市指定有形文化財）の里程標識（石柱）が立っている。

⑦野仲地域の景観の要素

野仲地域は、三区（野仲）井路・原尻新井路・明正井路の3井路によって灌漑される地域である。三区井路により灌漑される借渡・清田地域の広大な圃場と、原尻新井路・明正井路により灌漑される田尾・前久保の棚田が織りなす田園風景が広がっている。田植時期には一斉に水田化するが、現在の眺めは同時期に成立したものではなく、長い井路開発の歴史を経て形成されたものである。以下に、景観の構成要素を示す。

表 17 野仲地域の景観の構成要素

| 番号 | 要素名 | 写真 | 説明 |
|----|-----------------|--|--|
| 1 | 八坂社 |  | 野仲区に散在していた祭神を合祀して明治9年（1876）に八坂社と称するようになった。社の建立年は不詳である。境内には天保5年、15年、安政4年銘の灯籠がある。祭神は大己貴命や素戔鳴命で、毎年秋分の日に開催される緒方五千石祭に神輿が御幸する。 |
| 2 | 田尾の横穴墓と磨崖宝塔・五輪塔 |  | 田尾地区の水田横に穿たれた横穴墓とその脇に彫刻された磨崖宝塔と五輪塔。古墳時代以降の人々の信仰を推し量ることのできる遺跡である。すぐ横には原尻新井路の末流が水田を潤している。 |
| 3 | 原尻新井路の落水地点 |  | 原尻新井路の末流水を、三区井路に合流させる放水門。原尻新井路の調整水門と三区井路への補水の機能を持つ。 |
| 4 | 三区（野仲井路）放水門 |  | 三区（野仲）井路の水を緒方川に落とす水門である。原尻新井路と三区井路の合流地点よりも下流にあり、大水の時などに放水する調整水門の役割を持つ。 |

| 番号 | 要素名 | 写真 | 説明 |
|----|------------------------|---|---|
| 5 | 野仲井路橋 (アーチ式石橋) |  | <p>野仲井路が清田川を越すため、明治14年頃に石造のアーチ式石橋が架けられた。橋長6.5m、橋幅3.8m。上面から見ても石橋があるようには見えないところが面白い。</p> <p>水路橋の下に行くと、野仲井路橋と野仲道路橋が並んで見える。橋の上部からは2基並列している様子は見ることができない。</p> |
| 6 | 野仲道路橋 (アーチ式石橋) |  | <p>大正8年に架けられた道路橋で、橋長7.6m、橋幅4.0m。野仲水路橋に密接して造られている。明治と大正のアーチ橋建造技術の違いが確認できる珍しい場所である。</p> |
| 7 | 野中井路碑 ※現在の地名は野仲である。 |  | <p>昭和16年に建立された井路碑で野中(仲)井路の開発の歴史が刻まれている。承応元年の開鑿開始、明治14年の取水口付近の岩盤掘り割り工事、大正10年の堰堤改修工事及び掘り割り延長工事の概要が記されている。</p> |
| 8 | 野仲石風呂 (市指定有形民俗文化財) |  | <p>野仲区の米納にある石風呂で、辻河原石風呂(県指定有形民俗文化財)に倣って掘ったという。一度に4人くらい入っていたと言われる。緒方町域に所在する11基の石風呂のひとつ。現在は使用されていない。</p> |
| 9 | 野仲二里塚 (市指定有形文化財) |  | <p>岡城からの主要道路に設置された里程標識で、「岡ヨリ二里 野中村之内小平田」と刻まれている。</p> |

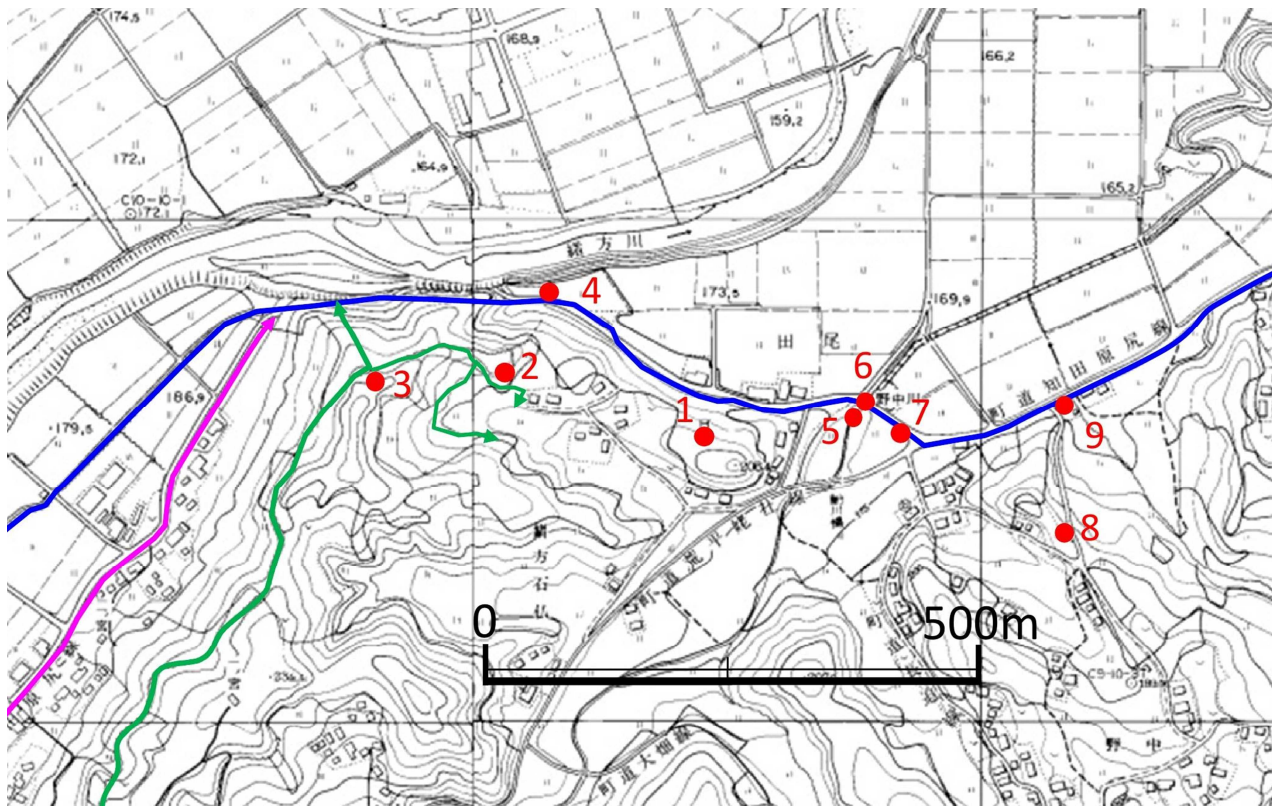


図 76 野仲地域の構成要素位置図